



徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念
「思いやり・信頼・安心」

R03/01
25号

〒770-0812 徳島市北常三島町2丁目34番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

新年のご挨拶 ～コロナ禍の中、迎えた2021年に向けて～



病院事業管理者
安井 夏生

2020年は、新型コロナウイルス感染症の対応に明け暮れた一年でした。新年を迎えても感染拡大が鎮まる様子はなく、1月7日には緊急事態宣言が発令されました。都市部では既に医療崩壊が深刻な問題となっております。徳島でも新たなクラスターが発生し、今後の感染の広がり方次第で、いつ医療崩壊をきたしても不思議でない状況にあります。

さて、新型コロナウイルス感染症の流行により、生活様式に様々な変化が見られるようになりました。マスク着用、手洗いの実施、ソーシャルディスタンス維持などの習慣はすっかり定着したようです。我々は不要不急の外出を控え、宴会・飲食の機会を減らし、会議や授業はリモートで行うなど、人と人との接触をできるだけ避ける工夫をするようになりました。病院でも職員は防護服に身を固め、ウイルスとの「触れ合い」を避ける訓練

を受けていますが、患者さんとの心の触れ合いは忘れてはならないことです。

巷では忘年会、新年会は取り止めとなり、成人式や結婚式、卒業式、入学式といった人生の節目となる儀式まで制限されるようになりました。学会や研究会もリモート形式です。情報交換を行うだけならリモート会議で十分かも知れませんが、人との出会いや心の触れ合いは、画面を通してだけでは十分できないものです。

不要不急の概念は、コロナが収束してからも生き残るでしょう。そして「ムダ」の排斥に向かう可能性を秘めています。徳島市民病院の中には様々なムダがあると思いますが、時間的、空間的、金銭的なムダを全て排斥して、効率性だけを追求すれば医療の質を担保することが難しくなるでしょう。我々には、新型コロナウイルス感染症を克服する中で「思いやり・信頼・安心」の理念を忘れず、良質の医療を提供する義務があります。その結果として安定した病院経営が行える2021年となることを祈っています。

本年もよろしく願い申し上げます。



市民病院長
三宅 秀則

新年明けましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス一色で、世界中文字通り大変な一年でしたが、2021年は感染も収束し、明るい一年になることを祈っております。

新型コロナウイルスの感染拡大防止と感染者に対する適切な対応は、公立病院として当然の使命であり責務と考えています。当院は早くから徳島県の方針に従い、対応してきました。そのような環境の中で

通常の医療も滞りなく継続できたのは、職員の団結力、チームワーク力のおかげであり、院長として感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、本年4月には、放射線治療装置であるリニアックが更新され、昨年8月半ばより中断しておりました放射線治療を再開します。新装置では旧装置に比べ、非常に精度の高い放射線治療が可能となります。

整形外科では、全国的にもまだ導入が少ないロボット支援手術が股関節置換術で開始される予定です。寸分の狂いなく人工関節置換が可能であり、高齢社会で今後も増える関節疾患に対して、大きな役割を果たすことができると非常に期待しております。

また、災害拠点病院として役目をしっかりと果たすべく、災害時に必要な水と重油の貯蓄量を、現在より多く確保するための工事にも取りかかりました。市民の方より「ここに在ってほしい」から「ここになくは困る」と、より一層頼りにされる病院を目指してまいります。

このたびのパンデミックを考えますと、世の中、今後何が起こるかわかりません。徳島市民病院としてのアイデンティティーを失わず、多様性を受け入れて、医療はもちろん、世の中の変化に対応できるような組織になっていかねばなりません。

少しはしんどく我慢せねばならない点があるかもしれませんが、職員全員で力を合わせて、頑張りたいと考えております。本年も、徳島市民病院を何卒よろしく願い申し上げます。

全身用X線CT撮影装置 更新完了



病変の診断はもちろん、様々な手術計画などにも役立っています。3年前に新規導入された320列CTと、今回導入された80列CTとの2台稼働により、CT検査がよりスムーズに行えるようになりました。

最新の80列CTには、上位機種である320列CT用に開発された新技術が数多く搭載されています。ほとんどの検査において320列と同等の画像を描出することが可能です。

また、従来の64列CTは金属アーチファクト除去技術を持っていなかったため、金属インプラントが入っている患者さんは320列CTで撮影してきました。しかし、今回の更新で2台どちらのCTでも金属アーチファクト除去が可能になり、待ち時間の短縮が見込まれます。

胸部や腹部の造影検査でもほぼ同等の画像が撮影できるようになったため、片方のCTの点検や故障時でも安定した画像が得られます。

更に、昨今急速に進化を続けるAIを利用した画像処理であるDeep Learning再構成技術を有しており、より高い画質を得られる可能性があります。被曝低減に関しても最新の技術が使用されており、従来のCTと比較して最大75%の低減効果が期待できます。

最新の80列CTの導入により、患者さんにとってより安全であり、かつ快適な検査環境を提供できるようになりました。

令和2年12月25日から行われていた更新工事が完了し、令和3年1月4日より、新たに最新の80列マルチスライスCT（以下CT）が導入されました。新病院が建設されて以来、12年間使用していた64列CTとの入れ替えとなります。

CT検査はX線を使用して人体の断面を撮像する装置です。頭部、胸部、腹部、四肢など全身の検査に有用です。特に大動脈や肺などの胸部、肝臓や胆嚢、膵臓、腎臓などの腹部、外傷による骨折の描出に優れています。

様々な画像処理を施すことによって、任意方向からの断面や3D立体画像を構成することが可能であるため、

実習生17名受け入れ

当院では、1月12日から2月5日までの約4週間、17名の学外実習生を受け入れています。

学生実習室のみの使用では室内が密となるため、会議室の一つを学生用として準備しました。会議室には窓がないため、HEPAフィルター付きパーティションを空気清浄機として設置し、出入り口も開放して換気を徹底しています。窓のある学生実習室にも、空気清浄機が設置されています。

実習生の皆さんは、指導医について各診療科で診察や

手術、検査等の見学・介助を行います。基本的手技を経験したり、患者さんとコミュニケーションを取る中で、今後の医師生活を具体的にイメージできるようになります。

17名は今後、他の医療機関でも実習を行い、当院では2月8日より新たに16名の学外実習生を受け入れ予定です。



コロナ禍で頑張る人への応援メッセージ 展示

徳島市は、地域住民の皆さん方による支え合いづくりを推進するため、「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」を徳島市地域包括支援センターと徳島市社会福祉協議会に配置しています。

この度、生活支援コーディネーターが中心となり、新型コロナウイルス感染症対策等に日々奮闘されている方々への感謝の気持ちや、応援メッセージを市民の皆様から募集し、届ける事業を実施いたしました。事業名は「コロナ禍で頑張るあの人へ『ありがとう』の気持ちを届けようプロジェクト」です。

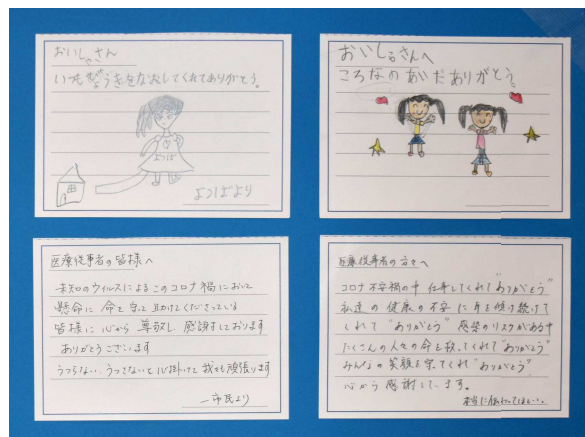
医師、看護師、ヘルパー、教師、保育士、消防士、販売店・飲食店店員の方や地域で活動されている皆さん、そして身近な家族…。先の見えないコロナ禍においても、私たちの日常を支えてくれている方々に伝えたい、率直な感謝の言葉。令和2年10月15日から11月15日まで募集したところ、徳島市役所、ふれあい健康館、徳島市医師会館及びコミュニティセンターなどに設置した応募ボックス

には、約1,100件の温かいメッセージが届きました。

これらのメッセージカードは、ふれあい健康館で令和2年12月15日から12月20日まで、徳島市役所1階で令和2年12月25日から令和3年1月8日まで展示されました。徳島市ホームページでもその様子を公開しています。

当院でも、令和3年1月18日から2月12日まで、医療従事者向けのメッセージ約340件（四つ切り画用紙38枚分）を展示しています。設置場所は、1階 医事経営課裏の廊下壁面となります。

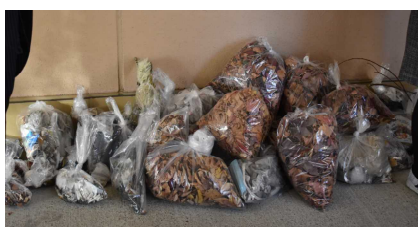
橋本看護部長からは、「コロナ禍という前例のない状況下において、このようなメッセージをいただけることは職員一同、大きな励みになります。地域の皆様、ありがとうございました。」とのことでした。



始業前清掃活動、すがすがしく

12月9日午前8時より、病院事業管理者、院長をはじめ職員約60人が始業前の清掃活動を行いました。

病院周辺道路のゴミ拾い、病院敷地内の落ち葉集めなど、約15分ほどの活動です。



昨年に比べてゴミは少なかったのですが、たばこの吸い殻や空き缶は沢山袋に詰められていました。

参加者からは「年に一度の活動ですが、とても気持ちのよいものでした。来年も参加したい。」との声が上がっていました。

パーティション設置

新型コロナウイルスの飛沫感染対策として、1階と3階の事務部にパーティションが設置されました。

このパーティションは段ボール製で、幅と高さをそれぞれ3段階に調整可能です。執務機のサイズに合わせて設置したり、下部の隙間から書類のやり取りをすることもできます。

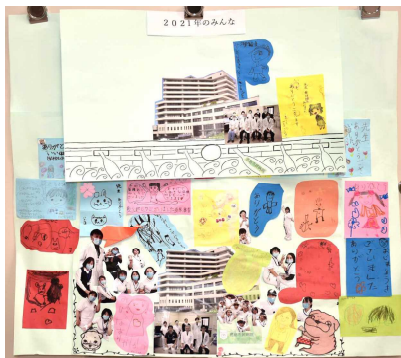
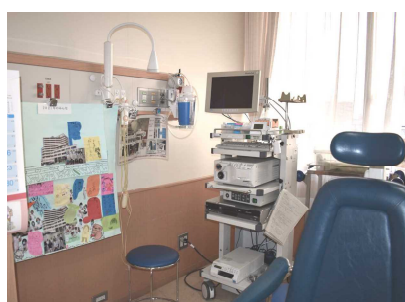
今後、必要な部署に順次設置していく予定です。



子供たちの筆致、のびのびと

当院で治療を受ける患者さんは、年齢も性別も様々です。手術の場合は特に、年齢が幾つであっても恐ろしく思うものですし、年少者であればなおさらでしょう。

耳鼻咽喉科では、7階病棟に入院し、手術をした患児さんに絵を描いてもらい、処置室に掲示しています。



人物や動物、感謝の言葉などがのびのびと表現されており、医療者への大きなエールとなります。治療を受ける方々、特に同年代の子供たちが目にすれば、心やわらぐのではないのでしょうか。2021年に描かれたものも加わり始めています。

入館許可証 変更

1月4日より、衛生面に配慮し入館許可証を首に掛けるカードタイプからシールタイプに変更いたしました。

入退院の付き添いや医師からの説明等で病棟へ上がる方、業者の方には、入口にて自動検温と体調チェック表へのご記入後にお渡ししています。

シールを貼っていない場合、病棟にて職員がお声がけすることがあります。

患者さんと入館された方、双方の安全



シールタイプの入館証例

のために、ルール遵守をよろしくお願いいたします。

研修医日記

初期研修医2年目 山崎 寛門

徳島市民病院での研修も終盤ですが、最近思い出すエピソードがあります。入社3日目の朝、私が自動車通勤していると、当院の目の前で急患が発生したのです。介抱に向かうと、看護師さんも付近にいらっやあって「先生ですか」と声をかけられました。まだ本格的な業務も始まっていないうちに、その間に「はい」と答えるのが恥づかしかった記憶があります。

あれから2年近くが経ちました。できないことだらけの中ですが、多少はできることも増えたかと思えます。そして、自分の処置等に対して、患者さんから感謝の言葉をいただいたときには「この仕事に就いてよかった」と感じます。

この1年は、COVID-19の流行という特殊な状況下での研修となりました。不便を強いられることもありましたが、医療従事者という立場での難局に向き合えたことは、良い刺激になったと考えています。

私の目標は「自分の力で徳島を元気にすること」です。初期研修修了後は京都芸術大学に編入学し、デザインの勉強をする予定です。3年後にはまた徳島に戻ってきますが、そのときには徳島市民病院で学んだこと、京都芸術大学で学んだことを最大限に発揮し、様々な方面で徳島の為に頑張りたいです。



初期研修医2年目 六車 隆太郎

市民病院初期研修医2年目の、六車隆太郎と申します。

出身は香川県で、大学から徳島県にきました。学生時の学外実習では2回、市民病院のお世話になっています。

いろいろな職種の方々の挨拶が飛び交い、学生の自分にも挨拶していただき、とてもアットホームな雰囲気でした。職種間の垣根がなく、働きやすい環境だろうと思い、研修先に市民病院を選ばせていただきました。今でも、その時の印象は変わりません。市民病院を選んで良かったと思います。

2019年4月から初期研修を始め、その研修も残り3か月弱となりました。最初は何も分からず右往左往しておりましたが、指導医の先生方やコメディカルの方々に懇切丁寧に指導いただいたおかげで、少しずつできることが増えました。今では微力ながら市民病院に貢献できているのではないかと思います。

4月からは、地元の香川県に戻って働くことも考えましたが、大学や市民病院でお世話になったことが印象強く、徳島県に残って後期研修を行う予定です。後期研修医としてしっかりスタートを切るためにも、引き続き患者さんのことを考えた医療を行いつつ、残り少ない研修期間、責任をもって働きたいと思っています。

今後とも、よろしく願っています。

